

講義名	専門基礎演習(人)			授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時間	前期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

**主題と概要**

1年生での基礎的な学修を受けて、2年生前期では大学の専門的な学修に向けての基礎を築くための演習を行います。  
この専門基礎演習は、心理社会学科教員が担当します。心理学関連領域や社会学関連領域のなかで具体的なテーマを設定し、それについて調べ（文献を読み、情報を集める）、議論をし、発表し、レポートを作成する方法を学びます。これらの方法は、大学における専門的な学修を進めるうえで必要なものです。また、研究演習 で専門的な学びをするうえでも必要なものです。従って、必ず履修していただきたい科目となります。  
演習で扱うテーマは演習担当者によって違いますが、どの演習クラスに所属しても「テーマについて調べ、議論し、発表し、レポートを作成する」力を身につける点で共通しています。演習の内容は、授業計画を参考にしてください。また、内容の詳細については、毎回授業時に担当者から説明がありますので、よく理解したうえで受講をしてください。

**到達目標**

- ・各演習のテーマにもとづいて、グループワーク、ディスカッションなどの協働作業を行うことができる。
- ・文献調査、情報収集、調査、レポート作成、発表（プレゼンテーション）などの学習方法を身に付けることができる。
- ・自らの志望に基づいて、研究演習1の選択を適切に行うことができる。
- ・自己の将来について考えることができる。

**提出課題**

授業内容に合わせて、「プレゼンテーション用のパワーポイント作成」や「レポート作成」が授業内の課題となります。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

「プレゼンテーション用のパワーポイント作成」については、発表時にフィードバックを行います。  
「レポート作成」については、授業内でその都度フィードバックを行います。

**評価の基準**

授業内の取り組み（グループワーク、プレゼンテーション等）：40%  
授業期間中のレポート提出：20%  
最終レポート：40%

**履修にあたっての注意・助言他**

グループワークが半分以上となりますので、毎回出席をし、グループのメンバーと協力しあうことを大切にしてください。

**教科書**

.使用しない。

**参考図書**

.なし。

**その他**

必要な資料は授業内で配付します。

**授業計画**

1. 専門基礎演習での学びについて
  2. コミュニケーション心理学
  3. 言語・非言語コミュニケーション（テーマ授し）  
第1回から第5回までの各回の学習と復習について  
予習：言語・非言語コミュニケーションについて調べる（60分）  
復習：授業で指示されたことに取り組み（180分）
  4. 心理社会学科研究演習合同ガイダンス1  
予習：心理社会学科教員の担当している研究演習 の説明（シラバスや大学hp）を見て不明な点について書き留めておき、ガイダンス時に質問できるようにしておく（120分）  
復習：ガイダンスを聞き、興味を持った演習の内容について調べる（120分）
  5. 心理社会学科研究演習合同ガイダンス2  
予習：心理社会学科教員の担当している研究演習 の説明（シラバスや大学hp）を見て不明な点について書き留めておき、ガイダンス時に質問できるようにしておく（120分）  
復習：ガイダンスを聞き、興味を持った演習の内容について調べる（120分）
  6. 言語・非言語コミュニケーション（テーマを決める）  
予習：テーマを決めるために必要な情報を調べる（120分） 復習：レポート作成の準備（120分）
  7. グループテーマについて調べる  
予習：テーマを決めるために必要な情報を調べる（120分） 復習：レポート作成の準備（120分）
  8. グループテーマについて実験・調査の計画と準備
  9. グループテーマについて実験・調査をおこなう
  10. グループテーマについて実験・調査の結果を分析する
  11. グループの実験・調査についての発表準備  
第6回から第11回までの各回の予習と復習について  
予習と復習：グループで決めた作業をおこなう（240分）
  12. グループ発表  
予習：発表の準備（120分） 復習：レポート（方法と結果）の作成（120分）
  13. レポートの作成：はじめに、方法、結果  
予習と復習：レポート作成（240分）
  14. レポートの作成：はじめに、方法、結果、考察  
予習と復習：レポート作成（240分）
  15. レポートの作成：レポートの見直し  
予習と復習：レポート作成（240分）
- \* 受講生の理解度や進捗度によって、授業計画を修正・変更を行うことがあります。

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。 社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会貢献・提学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創出することができる。 人間の精神機能と心理学の研究方法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。 コミュニケーション能力と、消費者と援助を求めるとの人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面で援助場面で心理学を応用することができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

グループワークの際も個別作業の際も、各グループと各個人を巡回しますので、常に受講生との直接的なやり取りを行います。

**実務経験の有無及び活用**

なし

**備考**